



学校だより

平成 28 (2016) 年 10 月 29 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

《補習校祭り打ち合わせ会に、ご参集いただき感謝申し上げます！》

ニュージーランド南島にありますクライストチャーチは、新緑の美しい季節を迎えています。

先週、全保護者対象の補習校祭り打ち合わせ会が、保護者行事委員会主催で行われました。その節は、お忙しいところ、多数の保護者皆様にお集まりいただき誠にありがとうございます。

本校最大の行事であります補習校祭りは、海外の地で生活する子どもたちが日本の豊かな文化と伝統にふれ、体験を通して、日本の文化と伝統のすばらしさを感じることができるよう取り組んでおります。特に、後半の部では、飲食物のブースやゲームコーナーで、全保護者皆様から厚いご支援、ご協力をいただいております。保護者皆様が直接関わる催しの準備は、小中学部各学年で違いがありますので、事前の打ち合わせが大切になっております。保護者皆様には、前日までの準備、当日、後片付け等、ご面倒をおかけいたしますが、よろしくお願いたします。

子どもたちは、年度当初から補習校祭りを楽しみにしております。補習校祭りの様々な催しは、日本語を学ぶ子どもたちが、日本語を通して体験し、考え、表現する力を、現実に即して教え・育てる機会であります。毎年、子どもたちから気づかされることは、「子どもたち一人ひとりの笑顔」であり、「学ぶことの楽しさ」です。今年もたくさんの笑顔があふれ、子どもたちの成長を促す機会となることを期待しております。

《本校は、今年で19年目。今後も、家庭教育と連携して日本語力の向上をめざします。》

本校は、1998年文部科学省より補習授業校と認定され、今年度で19年目を迎えています。補習校開設に際しては、日本人会、保護者、多くの在留邦人の皆様による絶大なご支援と要望、そして、日本の在クライストチャーチ出張駐在官事務所の懇切丁寧で温かいご指導とご支援を頂きました。補習授業校として開設以来、幾多の変遷を経ながら、カンタベリーで生活する子どもたちが再び日本に帰国して国内の学校に編入した際、スムーズな適応ができるよう、子どもたちの日本語力の向上と習得、さらには日本の学校の学習習慣、生活習慣の育成に重点を置いて指導を重ねてきました。また、日本の学校文化の体験教育にも努めてきました。

ところで、本校の年間授業時間数は156時間（4コマ×39週）で、日本国内の標準的指導計画と比べると、2倍から4倍を超える速さで授業を進めています。そのため、学習者である子どもと家庭、教員に、大きな負担がかかることは避けられない状況であります。復習の時間や、課題について調べ・まとめる時間、作文の書く時間、音読の時間については、十分確保することができません。家庭で行う毎日の学習と教室学習が統合されてこそ、確かな学力を育てることになります。確かな学力とは、関心・意欲、豊かな体験、活用力、思考力、判断力、表現力、知識、技能といった力が統合され、一体となった学力です。確かな学力を向上させるためには、基礎・基本の新しい知識や技能の習得にとどまらず、今までの知識や技能を活用して新しい解き方や考え方、あるいは新たな学習方法を用いて課題を解決、探求することが必要です。

子どもたちは、将来様々な課題に出会いながら解決の方策を導き出し、たくましく生きることが期待されています。この生きる力とは、確かな学力によって培われるものです。日本語を用いて知識、技能の習得を図り、その知識、技能を活用しながら思考力、判断力、表現力を向上させていくことが、本補習校の教育目的となります。

本補習校の教育を充実させ、さらに本校で学ぶ子どもたちの確かな学力の向上を図るため、お子さんと一緒に補習校へ通う目的意識を確認しましょう。また、毎週の宿題は必ず取り組むことができますよう、日頃より各家庭で日本語を学ぶ環境が整えられますようお願いいたします。

《保護者意向調査のお知らせ・・・今後の前期通知表「あゆみ」について》

今年度、前期通知表「あゆみ」を発行しませんでした。そのため、後期個別教育相談で、お子さんの前期における学習状況、生活状況、出欠席状況について、一部説明資料を添えてお伝えしました。

この件につきまして、保護者皆様の意向を事前に把握させていただき、12月10日（土）の平成29年度教育課程説明会で、今後の前期通知表の扱いについて報告いたします。今回の意向調査は、記名式で紙面に基づいてお答えいただけます。調査用紙は、各家庭1枚です。各家庭の長子のお子さんに配布します。提出締切日は、11月5日（土）です。よろしくお願いたします。